

# 特集 2015年商学部創立50周年・商学教育110年

## 歴史と伝統礎に

### 商学部教育の特徴



商学部長 佐々木重人

## 卒業生と学生、受験生、地域を結ぶ

生諸君の多くが商学部で「何ができるか、または何をすべきか」を入学前の段階で実によく調べあげ理解してくれていること、入学後は、企業や消費者行動をそのらの活動の場である市場(マーケット)に焦点を当てて分析し、解明することで、存在する問題点をえられた使命を認識

## 「市場」に焦点 解決策見いだす

2015年に商学部創立50周年を迎えるにあたり、「ニュース専修」に商学部の魅力と伝統、そして未来をご紹介することとなり、うれしく存じます。今の商学部の魅力を自身の体験から申し上げると、入学した学

後も学生たちは商学部が提供する教育メニューを信頼し、我々の期待によく応えてくれて商学部の教育の特徴を知り解決策を自ら考え訓練を重ねることにあります。商学部創立50周年、人にとれば、「知命」の歳となります。し、次世代を担う学生たちをこれからも全力で育て上げていく決意でおります。どうぞ変わらぬご支援をお願い申し上げます。

### ◇ 商学部創立50周年・商学教育110年の歩み ◇

- 1905 (明治38) 年: 「商科」設置
- 1917 (大正6) 年: 計理科新設により「計理の専修」の名が高まる
- 1928 (昭和3) 年: 専門部に「商業科」を増設
- 1949 (昭和24) 年: 学制改革により商業学科は経済学科とともに「商経学部」となる  
「会計学研究所」が設置される
- 1965 (昭和40) 年: 「商学部」(一部・二部)創立  
実学重視の商学教育がさらに発展
- 1966 (昭和41) 年: 研究科活動の拠点として「商学研究科」が設置される
- 1968 (昭和43) 年: 「会計学科」が設置されて、  
商学と会計学の学部教育2本柱が整う
- 1975 (昭和50) 年: 「大学院商学研究科(商学専攻)」設置
- 2000 (平成12) 年: 専門科目の Semester 制導入
- 2006 (平成18) 年: 商業学科を「マーケティング学科」に改称
- 2011 (平成23) 年: 大学院商学研究科に「会計学専攻」を増設
- 2014 (平成26) 年: 「新たな学士課程教育」はじまる

### 教育研究振興協力資金・募金のお祝い

商学部創立50周年にあたり、商学部学生の教育充実に向けて  
お問い合わせ  
趣旨・使途 専修大学商学部創立50周年記念事業実行委員会 E-mail: shogakubu01@sc.senshu-u.ac.jp  
募金の方法・免税 募金局 ☎03・32655・3157

### 商学部創立50周年 主な記念事業

- 【2013~15年】  
高校生向けの出張授業をパワーアップ  
・多彩な教員スタッフによる25科目以上の展開
- 【2014~15年】  
50周年記念特殊講義「ビジネス・インサイトⅠ」開催  
・商学部の卒業生や地域の事業者を招いたリレー講義によるアクティブラーニング(主体的で双方向的な学習)の展開  
・商学部の歴史を振り返る50年小史の発行  
・商学部の歴史を振り返る50周年記念式典  
・記念講演と、学生による「ビジネス・インサイトⅠ」の成果報告

商学部創立50周年を記念した特殊講義「ビジネス・インサイトⅠ」(担当・神原理教授)が後期からスタートした。商学部の卒業生や地域の事業者によるリレー講義と、その内容を掘り下げて考察するワークショップを交互に展開。学生は、外部講師をうならせる実践的な解決策(ビジネスプラン)の提示という最終ゴールを目指す。課題の本質にどこまで切り込めるか、学生と外部講師の真剣勝負が続いている。

### 特殊講義「ビジネス・インサイトⅠ」

10月28日の講師は、東亜道路工業の企画営業本部環境部長、青木和直氏(昭57商)。道路舗装を行う建設会社で、アスファルト乳剤の製造・販売では国内最大手という企業の立場から、国内外で建設業の果たす役割や長期ビジョンについて語った。高い技術力を背景にしたラジアルや東南アジア諸国での事業経験、電気自動車の普及に伴う道路交通網の将来、政府の財政難や人口減少・少子高齢化社会におけるインフラ(道路や上下水道などの社会資本)整備やコンパクトシティ(集約都市)構想など、青木氏の挙げた課題は多岐にわたる。

「自分とは全く関係のない業界の話だと思っていたら、地方再生や少子高齢化ともかわると知り驚きました」と田中美咲さん(3年次)は話す。外部講師の講義を聞いた

## OBや地元事業者が課題提示 学生とともに課題策考える

知見を引き出し、受講者は20人程のような力(洞察力)を身度にとどまったが、「企につけてほしい」と授業の現状や抱えている課題を当事者から直接聞いた。9月23日の開講後、青木氏のほか▽「南部」とされる。面白くて有意義り「など鶏肉商品の製造な授業です」(佐々木泰・販売会社アマタケ会地さん、3年次)と学生長、甘竹秀雄氏(昭33商)は意欲的。日本酒を取り経)▽銘酒「八海山」の巻く環境の変化と、地元蔵元である八海醸造執行の新潟・魚沼の食文化を役員の中俣善也氏(平4)を通じてブランドイメージを高める戦略を語った中ムワイフーズ社長、星野保氏も「授業への関心が衛氏(昭46商)の諸氏が高く熱心」と熱意を認めすでに講演。11月25日に、

顔を見せた。インサイトは「洞察力」。指導する神原教授は「大先輩の経験談を『自分のこと』のように受け止めながらも、多様な視点から課題を分析し、解決策につながる本質的な成」を受講の心構えとして。2カ月かけて企画書にまとめる。プレゼンテーションと審査は、講師を招いて来年1月20日に開催。優秀作は来年度前期に開講する「ビジネス・インサイトⅡ」での優秀作と合わせ、50周年記念式典で披露される。



舗装道路の構造を説明する 東亜道路工業の青木氏



八海醸造の中俣氏の講義では、若者のアルコール離れにも話が及んだ



田中美咲さん



佐々木泰地さん